

東松島市市制施行20周年記念誌。20年の主な出来事。

【2005年(平成17年)4月】。

旧矢本町・旧鳴瀬町の2町合併により東松島市が誕生。両ちょうの特性を融合させた、よりよいまちづくりを目指す。

指定管理者による管理運営施設として東松島市健康増進センター「ゆふと」がオープン。

県立高校の再編計画に伴い、単位制高校である「東松島高等学校」が開校。

東松島市長選挙で、ぜん矢本町議会議長の阿部ひでお氏が初当選。

また、東松島市議会議員選挙では26人が当選

(合併特例法による在任や選挙区の設定に関する特例は適用せず)。

【5月】。

奥松島縄文村歴史資料館の入館者数が30万人を達成。

初代の東松島市議会議長に三浦昇氏、副議長に渡邊稔氏が就任。

初代の東松島市助役に石山賢吉氏、収入役に加藤かんじゅ氏、

教育委員会教育長に佐々木寛氏が就任。

【7月】。

市章及び市かに「さくら」、市ぼくに「松」を決定。

【9月】。

矢本西小学校東側を通る主要県道矢本河南線と一般県道石巻工業こう矢本線を直結させる

「矢本アンダーパス」が開通。

【10月】。

第1回東松島市民文化さいを開催(10月22日～11月6日)。

【11月】。

北海道更別村と友好姉妹都市盟約を締結。

東松島市市制施行記念式典を開催。

【2006年(平成18年)2月】。

東松島市キャラクターを公募し、全国から641点の応募があり、その中から鳥取県の上原順子さん応募の「イート」に決定。

【3月】。

宮と月浜のこ正月行事「えんずのわり」が国の重要無形民俗文化財に指定。

野びる築港120年フォーラムを開催。

【5月】。

第1回東松島国際ソーデーマーチを野びる海岸と宮とじまを中心に開催。

【7月】。

北海道更別村と災害時相互応援協定を締結。

【12月】。

老朽化した、しもはまばしを架け替え、おおまがり浜新橋が完成。

【2007年(平成19年)3月】。

三陸自動車道の鳴瀬奥松島インターチェンジと国道45号・県道のスムーズな接続を目指して、鳴瀬川と吉田川に架けられた一般県道河南鳴瀬線「東松島大橋」が完成し、開通式を開催。

【4月】。

「市民協働のまちづくり」の導入を見据え、市内8地区に「市民センター」を設置。

大塩地区に新しい市一般廃棄物最終処分じょうが完成。

『心輝き 自然輝く 東松島』を目指し、東松島市総合計画がスタート。

任期満了に伴う宮城県議会議員選挙で現職の渥美巖氏が無投票当選(4期)。東松島市としては初めての単独選挙区「東松島選挙区」(定数1)として執行された。

【2008年(平成20年)1月】。

奥松島縄文村歴史資料館開館15周年記念縄文村シンポジウムを開催。

三陸自動車道の鳴瀬奥松島インターチェンジから石巻河南インターチェンジ間が無料化。すでに無料区間となっていた石巻河南インターチェンジから桃生津山インターチェンジ間と合わせて、鳴瀬奥松島インターチェンジ以北が無料区間として走行可能になる。

【3月】。

矢本第一中学校の新校舎が完成。

【4月】。

いしのまき農業協同組合・東松島カントリーエレベーター「とうしょうかん」が大塩地区に完成。

【5月】。

家庭ごみの「容器包装プラスチック」の分別収集がスタート。収集されたプラスチックは固形燃料の原料となる。

【7月】。

矢本横穴ぼ群の発掘調査で、県内では初めてとなる古銭「わどうかいちん、わどうかいほう」が出土。

【2009年(平成21年)1月】。

開館5年めとなる蔵しっくパークの来館者数が10万人を達成。7月には「5周年記念蔵っば祭り」が開催される。

【2月】。

政府の緊急経済対策となる「定額給付金」、「子育て応援特別手当」の給付事業を行うため、支給事業実施本部を設置し、3月30日から申請受付開始。

【3月】。

漁業者らが研究成果や活動事例を発表する第14回全国青年・女性漁業者交流大会で、最高賞の農林水産大臣賞に矢本漁業協同組合(現 宮城県漁業協同組合矢本支所)矢本せんかい漁業研究会が選ばれる。

【4月】。

「市民協働のまちづくり」が本格的にスタート。市内8地域の地域自治組織がそれぞれの地域の「市民センター」の指定管理者となる。

任期満了に伴う東松島市長選挙で現職の阿部ひでお氏が無投票再選(2期)。また、任期満了に伴う東松島市議会議員選挙では22人が当選(議員定数4人減)。

【7月】。

予約がた乗り合いタクシー「らくらく号」試験運行開始。

【2010年(平成22年)2月】。

チリの地震により発生した津波で、宮城県など東北太平洋沿岸におお津波警報が発表。養殖施設を中心に漁業関係で大きな被害を受けたことにより激甚災害指定になる。

【4月】。

新大塩市民センターが完成し利用開始。

市教育委員会が、子どもたちの主体的な取組を促す「心あったかイトころ運動」を市内小中学校で本格的に開始。

【5月】。

住民の参加率を競うスポーツイベント「チャレンジデー」に初めて東松島市が参加。対戦相手の茨城県ひたちおた市に惜敗するも、アワード部門「ベストPR賞」を受賞。

【6月】。

三陸自動車道矢本パーキングエリア(上下線)に無料休憩施設「イトハウス」がオープン。

【8月】。

航空自衛隊松島基地所属のアクロバット飛行チーム「ブルーインパルス」が創設50周年を迎えた。

【10月】。

石巻市と東松島市、おながわ町との連携強化を掲げた「石巻圏域定住自立圏形成協定」を調印。令和4年に再調印。

新大塩地区体育館が完成したことを祝い、落成祝賀会が行われる。

東松島市合併5周年を記念した市民まつりが、市コミュニティセンターを会場に開催。市のイメージソングはつ披露やセンター前に7本のせきちゅうで構成する、市民協働のまちづくりによる都市宣言碑の完成を記念した除幕式が行われ、中学生が宣言文を宣誓した。

【2011年(平成23年)3月】。

東日本大震災のおお津波により甚大な被害を受ける。

東日本大震災の発生により、避難じよとなった市内小中学校の卒業式が例年より遅れて行われる。

【4月】。

東松島市震災復旧・復興指針を策定。

天皇皇后両陛下(現 上皇・じょう皇后陛下)が航空自衛隊松島基地を經由して、南三陸町や仙台市などの宮城県内の被災状況を視察。

【6月】。

東松島市震災復興基本方針を策定。

震災から100にちの節目に、東日本大震災東松島市慰霊さいを、航空自衛隊松島基地整備格納庫で実施。

【7月】。

被災したJR・仙せき線の区間のうち、石巻駅から矢本駅間が運行を再開。

東京都大田区と災害時相互応援協定を締結。

【8月】。

東松島元気フェスタを開催(ブルーインパルス展示飛行、打ち上げ花火、夏祭りなど)。

【10月】。

被災者サポートセンターが開設。市社会福祉協議会が受託運営。

【11月】。

埼玉県東松山市と災害時相互応援協定を締結。

任期満了に伴う宮城県議会議員選挙(東松島選挙区 定数1)で現職の渥美巖氏が無投票当選(5期)。震災による選挙期日等の延長臨時特例により、本来執行すべき期日から約7か月後に執行された。

【12月】。

山形県東根市と友好都市提携盟約・災害時相互援助協定を締結。

東松島市が政府の新成長戦略に位置付けられた「環境未来都市」に選定される。

東松島市復興まちづくり計画を策定。

【2012年(平成24年)1月】。

震災後、初めて迎える新年において、おおまがり浜獅子舞が復活。勇壮な舞を披露し、人々を勇気づける。

【2月】。

法テラス東松島が開所。令和3年3月の閉所までに様々な法律相談や生活相談などに対応。

【3月】。

震災から1年の節目に、東日本大震災東松島市慰霊さいを航空自衛隊松島基地整備格納庫で実施。

被災したJR・仙せき線の区間のうち、矢本駅から陸ぜん小野駅間が運行を再開。

震災の影響で閉館していた奥松島縄文村歴史資料館が再オープン。開館20周年を迎える。

【4月】。

社会福祉法人矢本愛育会が運営する矢本西保育園・児童発達支援センター障害児デイケアセンター「こどもの広場」が開所。

新・東松島市学校給食センター(愛称:ハッピート)が完成し、PFI事業として稼働。

【6月】。

市内の津波浸水域を中心に「津波防災区域」を指定。同区域内での建築制限の目安となる。

【7月】。

平成24年度環境未来都市フォーラムが、市コミュニティセンターを会場に開催。

【9月】。

鳴瀬地区小中学校の統合校開設に向けて、小野小学校と浜いち小学校の統合校めいを「鳴瀬おう華小学校」に、鳴瀬第一中学校と鳴瀬第二中学校の統合校めいを「鳴瀬未来中学校」にする条例案が市議会で可決。

【10月】。

環境未来都市構想の実現へ向け、産・学・官・民の連携を橋渡しする一般社団法人東松島みらいとし機構(愛称「HOPE」)が設立。

【12月】。

(公社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとエボニック・デグサ・ジャパン(株)の復興支援により、新しい矢本東保育所が市図書館東隣に完成。

【2013年(平成25年)2月】。

おながわ原子力発電所からおおむね30km圏内が「緊急時防護措置を準備する区域(UPZ)」に指定されたため、東松島市地域防災計画(原子力災害対策編)を策定。

【3月】。

東松島「絆」カーポートソーラー(カーポート型太陽光発電設備)が市コミュニティセンター、鷹ぎの森運動公園、大塩市民センターの3か所の敷地内に完成。

震災の影響で芦屋基地(福岡県)に一時避難していたブルーインパルスが、航空自衛隊松島基地に帰還。

鳴瀬地区4小中学校(小野小学校・浜いち小学校、鳴瀬第一中学校・鳴瀬第二中学校)を閉校。

【4月】。

鳴瀬おう華小学校・鳴瀬未来中学校が開校。鳴瀬おう華小学校の校歌は歌手の中村雅俊さんが作曲、鳴瀬未来中学校の校歌は歌手の加藤登紀子さんが作詞作曲をてがけた。

任期満了に伴う東松島市長選挙で現職の阿部ひでお氏が無投票再選(3期)。また、任期満了に伴う東松島市議会議員選挙では18人が当選(議員定数4人減)。

震災廃棄物の徹底した分別により、リサイクル率99%を実現した「東松島方式」の震災がれき処理。平成26年3月までに完了。被災した市民を雇用し、手選別作業などにより処理コストを大幅に削減し、のちに被災地における災害廃棄物処理の先行モデル事例となる。

【8月】。

旧奥松島運動公園(野びる地区)に、奥松島「絆」ソーラーパークが完成。

【10月】。

震災により休止していた嵯峨溪遊覧せんが「奥松島遊覧せん」として再開。

【2014年(平成26年)3月】。

市内で最初の災害公営住宅254戸の入居開始にあたって、「市営小松南住宅」で災害公営住宅の鍵引渡し式を開催。

おおまがり浜保育所を閉所し、おおまがり保育所に統合。

【4月】。

津波監視カメラを市内沿岸部4か所に設置し、本格運用開始。

【5月】。

住民の参加率を競うスポーツイベント「チャレンジデー」が行われ、鹿児島県南さつま市に勝利。
平成22年の初参加以来、4回目で初勝利となる。

奥松島観光情報センター(N-まっぷ)を地域交流施設に改修。

【6月】。

集団移転先7団地のうち、5団地166区画が完成し、宅地引渡し式を開催。

【7月】。

(株)橋本道路と一般社団法人東松島みらいとし機構が連携し、アメリカ海洋大気庁が開発した科学地球儀を日本で初めて展示する施設「ディスカバリーセンター」を、小野地区に開設。

【11月】。

奈良・平安期の矢本横穴ぼ群から「かくたい」と呼ばれる古代の飾り金具付きベルトが出土。

【2015年(平成27年)1月】。

野びる小学校・宮と小学校の統合小学校の名称が、両校がっ区内の住民などによる投票で「宮野森小学校」に決定。

【3月】。

天皇皇后両陛下(現 上皇・じょう皇后陛下)が東松島市を来訪され、震災復興状況を視察。

【5月】。

震災で被害を受けたJR・仙せき線、陸ぜん小野駅から陸ぜん大塚駅間と、野びる駅・とうな駅の駅舎が野びる北部丘陵の高台へ移転復旧し、全線で運行を再開。記念式典や記念行事を開催。

【6月】。

東松島市健康増進センター「ゆふと」の施設利用者すうが100万人を達成。

【7月】。

国際協力を通じた地域創生に向け、独立行政法人国際協力機構(ジャイカ)と戦略的合意文書を締結。

【8月】。

東松島市合併10周年記念のサッカーフェスティバルを鷹ぎの森運動公園で開催。

【9月】。

市内最大の防災集団移転地「あおい地区」(東矢本駅北地区)の宅地引き渡しがいずれ全て完了(計画こすう 580戸)。

【10月】。

任期満了に伴う宮城県議会議員選挙(東松島選挙区 定数1)で現職の渥美巖氏が無投票当選(6期)。

【11月】。

東松島市市制施行10周年記念式典を開催。

埼玉県東松山市と友好都市提携盟約を締結。

一般財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団(C.W.ニコル理事長)が中心となり、野びる地区の復興の森に「森と対話する場所(サウンドシェルター)」を整備。

【2016年(平成28年)3月】。

小野保育所を閉所し、牛あみ保育所に統合、新・牛あみ保育所を移転新築。

【4月】。

宮野森小学校、仮設プレハブ校舎で開校。

熊本地震の被災自治体を支援するため、同県西原村に市職員3人を派遣。震災直後の経験から得た行政対応のノウハウを助言。

【7月】。

宮と地区の月浜海水浴場が6年ぶりに本格再開。平成25年及び平成26年は日曜限定で開設されたが、平成27年は復旧工事の関係で海水浴場の開設を見合わせていた。

【8月】。

航空自衛隊松島基地で震災からの復活を伝える「復興感謝イベント」が開催。平成22年以来6年ぶりにブルーインパルスやF2戦闘機の迫力ある展示飛行などを公開。抽選で招待を受けた約1万人が来場。

【9月】。

あおい地区自治会・地区会の発足に併せて、あおい地区・まちびらきイベントを開催。

【10月】。

震災の津波で被災した旧JR仙せき線・野びる駅舎が「東松島市震災復興伝承館」として改修。スタッフが常駐する館内で震災関連の資料や写真パネルを多数展示。

【11月】。

東京都大田区と友好都市提携協定を締結。

小松あざしもうたり地内に「矢本東市民センター」が開所し、「第11回矢本ひがし地区民まつり」も開かれた。

市内最後の防災集団移転団地となる、野びる北部丘陵団地の宅地整備が完了。野びる市民センターと奥松島観光物産交流センターが同団地内に開所し、「ひがしまつしまふっこうまつり」が開かれた。翌平成29年4月には、新・野びる保育所を開所。

【2017年(平成29年)1月】。

震災で被災した宮と小学校と野びる小学校を統合して平成28年4月に誕生した宮野森小学校の新校舎が防災集団移転地である野びるが丘に完成し、平成29年1月から授業開始。同年3月には、学校近隣地に宮野森小学校放課後児童クラブが完成。

【4月】。

宮と地区に復興再生多目的施設が完成。愛称は「あおみな」に。あおみなないの宮と市民センターも利用開始。

任期満了に伴う東松島市長選挙でぜん宮城県議会議員の渥美巖氏が初当選。また、東松島市議会議員選挙では18人が当選。

【5月】。

安倍晋三内閣総理大臣と吉野正芳復興大臣が東松島市を訪問。防災集団移転地の野びるが丘にある宮野森小学校を訪れ、児童たちと交流。

議員辞職の欠員に伴う宮城県議会議員補欠選挙(東松島選挙区 定数1)でもと市復興政策部長の高橋しゅう也氏が無投票初当選。

スポーツイベント「チャレンジデー」が行われ、東松島市は7回目の参加(奈良県広陵町と対戦)。

【10月】。

日本との国交樹立150周年を記念して来日したデンマークのフレデリック皇太子(現 国王)が東松島市を訪れる。震災発生直後から多大な復興支援をいただいております、平成23年6月に初めて訪問して以来6年ぶりで、当時交流した旧浜いち小学校の卒業生と再会。

防災集団移転地の野びるが丘で、「野びるが丘・まちびらきまつり」が開かれ、セレモニーやみこしパレードなどが催された。

【11月】。

震災により被災された方々への追悼と鎮魂、震災の記憶と教訓を後世に伝承するため、「震災遺構JR野びる駅プラットフォーム」、「震災復興伝承館」、「祈念広場」で構成する東松島市東日本大震災復興祈念公園が旧JR仙せき線・野びる駅舎一帯に完成。

津波で被災したおおまがり地区体育館が矢本東市民センター隣接地に移転新築。

東松島市が、内閣府からデンマーク王国の「復興ありがとうホストタウン」として登録される。震災からの感謝の気持ちを伝え、相互交流を深める。

第50回東松島クロスカントリー大会が開かれ、市内外から約700人が参加。半世紀の節目を記念し、「ペア2km」の部が新設される。

【12月】。

宮と地区で使われていない廃漁港の旧鮫ヶ浦漁港に「水曜日郵便局」が開局。平成30年12月までに5664通の手紙の交流が行われた。

【2018年(平成30年)1月】。

鳴瀬未来中学校の新校舎落成式が同校屋内運動じょうで開かれ、新たなまなび舎の完成を生徒など約350人が祝う。

【3月】。

震災の津波で庁舎が全壊し、防災集団移転地の野びるが丘に移転新築した東松島消防署鳴瀬しゅっちょうじょが開庁。

小学校敷地内などに移設を進めてきた放課後児童クラブ(学童保育)のうち、赤井南小「ひまわり放課後児童クラブ」を開所。

【4月】。

小松地区のイオンタウン矢本内に社会福祉法人・タイケン福祉会(法人所在地 埼玉県)が運営する「ウェルネス保育園矢本」が開園。平日午後8時までの夜間延長保育を実施。

震災の津波で局舎が全壊し、防災集団移転地の野びるが丘に移転新築した野びる郵便局が業務開始。同地区への金融機関の開設は初。

【5月】。

福岡県豊前市と友好都市提携盟約を締結。

【6月】。

政府はSDGズ(持続可能な開発目標)の達成に向けた取組を提案した全国29自治体を「SDGズ未来都市」として選定。宮城県からは唯一、東松島市が選ばれ、安倍晋三内閣総理大臣から選定証が授与された。

大阪府北部地震で被災した大阪府枚方市(最大震度6弱)に市職員を派遣し、被災状況の把握、家屋の安全確認などの業務に当たった。

【7月】。

2020東京五輪の事前合宿で東京都大田区を訪れていた男子ハンドボールのブラジル代表選手らが、宮野森小学校に足を運び、児童たちと交流。

旧野びる小学校校舎を改修した防災体験型教育宿泊施設「子供未来創造校 キボッチャ」が全館オープン。

学力向上のための授業日数の確保を目的に、平成30年度から市内小中学校の夏季休業期間をよっかかん短縮。

震災の津波で堤防が決壊するなどした二級河川「じょうがわ」の災害復旧工事が完了。

【8月】。

安倍晋三内閣総理大臣と吉野正芳復興大臣が震災からの復興が進む東松島市を訪問。全国の自治体から派遣された職員を激励。

【10月】。

韓国発祥のトレッキングで、国内2か所目の認定となった宮城オルレの「奥松島コース」がオープン。

学校法人・タイケン学園(法人所在地 東京都)と、小野地区の小中2校の校舎を活用して平成32年度の開校を目指す全日制私立高等学校に関する基本協定を締結。

【2019年(平成31年)1月】。

国連が採択した「持続可能な開発目標」の達成へ向け、東北地方の3市町が集い「第1回東北SDGズ未来都市サミット」を東松島市で開催。

【2月】。

震災ごから交流を続けているデンマークのロラン市から中学生ら約20人が訪問。地元の中学生らとホームステイで交流を深める。

たて沼地区と牛あみ・浜いち地区を結び、災害じは避難道路となる「市道・たて沼浜いち線」が
開通。

【3月】。

皇后陛下(現 じょう皇后陛下)が野びる地区を題材に詠まれた歌を刻んだみうた碑の除幕式を、旧JR仙せき線・野びる駅舎一帯の震災復興祈念公園内で実施。

矢本海浜緑地パークゴルフ場に防衛省補助金を活用した休養施設(クラブハウス)が完成。

災害公営住宅「市営柳の目西住宅」100戸の完成をもって、市内17地区1,101戸の災害公営住宅の整備が完了した。

小学校の敷地ないまたは隣接地にそれぞれ建築した「サルビア放課後児童クラブ(矢本東小学校)」、「さくら放課後児童クラブ(矢本西小学校)」、「いちご放課後児童クラブ(赤井小学校)」が完成。また、令和2年度から市内の放課後児童クラブの利用終了時間を午後7時までに延長。

【4月】。

震災で被災し、休園していた県立都市公園矢本海浜緑地が移転開園し、記念セレモニーを開催。県内最大級の計54ホールの「矢本海浜緑地パークゴルフ場」が新設されたほか、複合遊具や水遊び広場、バーベキュー広場など親子で楽しめる場が設けられた。

【2019年(令和元年)7月】。

小松地区に移転新築した「矢本西市民センター」の開所式が行われた。

【9月】。

「宮城オルレ奥松島コース」がいつしゅうねん。オルレ発祥の地である韓国からも来賓が出席し、節目を祝ったトレッキングに臨んだ。

【10月】。

予約がた乗り合いタクシー「らくらく号」の土曜運行が始まる。

石巻、東松島のしづかい二級河川「じょうがわ」の河口にある一般県道石巻工業こう矢本線「じょうがわ大橋」が復旧開通。

台風19号で堤防決壊など甚大な被害を受けた友好都市埼玉県東松山市に、ブルーシートやどのような支援物資を届ける。

任期満了に伴う宮城県議会議員選挙(東松島選挙区 定数1)で現職の高橋しゅう也氏が無投票当選(2期)。

【12月】。

「心あったかイートころ運動」がスタートから10年目を迎える。

市議会がおおまがり浜地区被災市街地復興土地地区画整理事業地内の新町名「みそら」を議決。

【2020年(令和2年)1月】。

半導体製造装置部品の加工製造などを手掛ける(株)サワ(本社 山梨県)の宮城第3工場がびびき工業団地内に完成。

【2月】。

「あおぞら放課後児童クラブ(大塩小学校)」が完成。

【3月】。

新型コロナウイルス感染症の流行が拡大している中、県内で唯一、感染対策を講じた式典形式の東日本大震災追悼式を実施。

ギリシャから東京五輪の聖火を運ぶ特別輸送機「TOKYO2020号」(日本航空と全日空が共同運航)が、国内で最初に航空自衛隊松島基地に着陸した。これに合わせて市内上空をブルーインパルスが飛行し、カラスモークで五輪のシンボルマークと同じ5色の航跡を描く。

ギリシャから東京五輪の聖火が本市に到着した日にあわせて、「スポーツ健康都市」を宣言。市役所前では17のスポーツ少年団の代表の子どもたちを交えてセレモニーが行われた。

【4月】。

小野地区の鳴瀬未来中学校旧校舎を活用し私立の全日制全寮制の「日本ウェルネス宮城高等学校」が開校。

赤井地区に社会福祉法人・タイケン福祉会が運営する「ウェルネス保育園赤井」が、同法人が運営する「ウェルネス保育園矢本」に次いで開園。平日午後8時までの夜間延長保育を実施。

おおしおから小野地区を縦断する一般県道大塩小野停車場線のかみ小松地区のバイパス工事が完了し、開通式を実施。

新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴う社会的経済的な影響に対応する政府の「特別定額給付金」の給付を行うため、給付金交付推進室を設置。

【5月】。

宮と地区復興多目的施設「あおみな」に、あおみな食堂がオープン。

【8月】。

市内の小中学校連携教育事業として、第1回東松島市「子ども未来サミット」を開催。

【10月】。

震災の津波で被災し、災害復旧工事を進めてきた「奥松島運動公園」に人工芝の多目的グラウンドや野球じょうなどが完成。12月に完成式典を同体育館で開催。

東松島市震災復興伝承館が、展示スペースを拡充しリニューアルオープン。

【11月】。

石巻広域消防本部東松島消防庁舎(東松島消防署)が防衛省補助事業を活用して完成。訓練とうを屋上に配置し、ブルーインパルスをイメージした外観が特徴(消防庁舎のべ床面積 1568.78 m²)。

【12月】。

「第 19 回みやぎふるさと CM 大賞 2020」(東日本放送主催)で東松島市が最高賞となる「khb 大賞」を獲得。作品タイトルは「海苔海苔 ROCK」。

すがよしひで内閣総理大臣と平沢勝栄復興大臣が宮と地区の復興再生多目的施設「あおみな」を視察。

野びる地区の新たな避難道路として「市道・台前亀岡線」「市道・とうな新とうな線」が開通。

航空自衛隊松島基地若松門から JR 仙せき線矢本駅を南北に結ぶ市道と県道を「ブルーインパルス通り」と命名。

【2021 年(令和3年)1 月】。

新型コロナワクチン接種推進室を設置し、ワクチン接種を本格化。

【2 月】。

福島県沖地震が発生し、本市では震度 5 強(福島県内で最大震度 6 強)を観測。避難じよを開設。

ひまわり放課後児童クラブ(赤井南小学校)の利用児童急増に伴う 2 棟目の増築が完了。

【3 月】。

震災の発生から10年の節目となる東日本大震災追悼式を開催。

8世紀ごろの役所・軍事施設跡である赤井官衙遺跡が矢本横穴と併せ、赤井官衙遺跡群として国史跡に指定される。

旧宮と小学校跡地に「宮城県松島自然の家」の新・本館が完成。

じょうがわ復興大橋を含む県都市計画道路「矢本門脇線」が全面開通。

野びる地区と宮とじまを結ぶ主要県道奥松島・松島公園線「松ヶ島橋」が新たに完成。

観光庁は東松島市を「日本版持続可能な観光ガイドライン」のモデル地区に選定。

宮と地区に自然とのふれあいや学習の場、観光資源としての活用を目的とした「おお浜田湿地」の整備が完了。

【4 月】。

鳴瀬おう華小学校新校舎が落成し、被災した小中学校の再建が全て完了。また、鳴瀬おう華小学校放課後児童クラブが新校舎隣接地に完成し利用開始。

任期満了に伴う東松島市長選挙で現職の渥美巖氏が無投票再選(2 期)。また、東松島市議会議員選挙では 18 人が当選。

【6 月】。

東京五輪聖火リレーでは、野びるが丘やあおい地区の防災集団移転団地を走り抜け、震災から復興した被災地の現状を世界に発信。

東松島市食育推進協議会が「第5回食育活動表彰」農林水産大臣賞を受賞。

【7 月】。

奥松島運動公園マレットゴルフ場がオープン。

コバルトレーおながわと自治体支援パートナー契約を締結し、サッカー教室を開始。

【8 月】。

奥松島縄文村で東京 2020 パラリンピック「宮城県の火」をさいか。まいぎり式で火起こし。

【10 月】。

(株)楽天野球団と「スポーツ交流活動等に関するパートナー協定」を締結。奥松島運動公園野球じょうを「楽天イーグルス奥松島球じょう」と命名。

【11 月】。

「復興感謝 第1回東松島市産業さい」を開催し、8千人が来場。5千個の鳴瀬産の蒸しガキを振る舞い、震災からの復興と魅力ある産業を PR。

【12 月】。

旧鳴瀬町地域が令和 3 年 4 月に過疎地域に指定されたことに伴い、「東松島市過疎地域持続的発展計画」を作成。

「第 20 回みやぎふるさと CM 大賞 2021」(東日本放送主催)で前年に続き2大会連続の最高賞「khb大賞」受賞。作品タイトルは「風わたる青の国へ」。

洲崎復興道路(主要県道奥松島・松島公園線)が完成。野びるから松ヶ島ばしまで約3kmの道路が防ちょうていじょうに整備され、車窓から美しいうみの眺望が楽しめる。

【2022 年(令和 4 年)2 月】。

(株)サワの宮城第4工場がひびき工業団地内に完成。

【3 月】。

石巻警察署矢本交番が建て替え完了。

福島県沖地震により本市で最大震度6弱を観測。市健康増進センター「ゆぶと」などの公共施設や一般住宅に大きな被害を与える。

市内で唯一の公立幼稚園「矢本中央幼稚園」を閉園。

平成16年度に開館した蔵しっくパークが閉館。このうち「ひとまち交流館」となっていた木造建物を地震被害による耐震基準不適合により令和5年3月に解体。

【4月】。

(株)奥松島公社と東松島市観光物産協会が統合し「(株)東松島観光物産公社」が発足。

令和4年度から全ての市内小中学校で2学期制がスタート。

赤井南小学校新校舎が落成。

蔵王まちと友好都市提携盟約を締結。両市町に宮城県「自然の家」が所在することが機縁。

東松島市奥松島浮桟橋船舶乗場が完成。うみの玄関口として観光振興とにぎわいの創出を図る。

【6月】。

宮城県内で唯一、東松島市が環境省から「第1回脱炭素先行地域」(全国で26か所)に選定。

【7月】。

防衛省補助事業を活用した東松島市コミュニティセンターの大規模改修工事が完了。

震災後12年ぶりに野びる海水浴場開設。宮と地区の月浜海水浴場も新型コロナウイルス感染症の影響から3年ぶりの再開設。

【8月】。

東松島夏まつり・松島基地航空さいが3年ぶりに開催。航空さいは新型コロナウイルス感染症の感染拡大対策として基地内入場は応募制となり、約2万5千人が来場した。

【9月】。

世界の持続可能な観光地トップ100に県内で初めて選出。宮城オルレ「奥松島コース」を活用した施策が評価される。

【10月】。

一般社団法人日本ろうしゃサッカー協会とスポーツ健康都市具現化・SDGズ達成に向けた連携協定を締結。

東松島市長杯ビーチテニス 2022 を野びる海岸ではつ開催。

「第1回サンドアートジャパンカップ 2022」が野びる地区で開催され、地域おこし協力隊員で市内在住の保坂俊彦さんが優勝。受賞した作品めいは「夢の創造」。

奥松島縄文村歴史資料館が開館30周年を迎える。記念事業として制作された「縄文の丸木ぶね」のお披露目としんすい式を開催。

【2023年(令和5年)2月】。

(株)ベガルタ仙台とGX(グリーントランスフォーメーション)・SDGズ推進、スポーツ・観光振興を目指す連携協定を締結。

【3月】。

東松島市消防団が全国約2,200の消防団の中から、他の模範となる最高の荣誉である特別表彰「まとい」を受章。

新・くろまつ放課後児童クラブがおおまがり小学校敷地内に完成。

【4月】。

宮城県が令和4年5月に新たな津波浸水想定を公表したことに伴い、津波ハザードマップを改訂した「東松島市防災マップ」を全戸配布。

市内全小学校で英語の「教育課程特例校」認定。令和5年度から小学校1、2年生も年間30時間の英語学習に取り組む。

旧蔵しっくパーク内に教育支援センター「ひがまつBASE」開設。教職員経験者による「学び指導員」や「心のケア相談員」らが、不登校傾向の子どもたちの学習サポートや居場所づくりに取り組む。

矢本海浜緑地パークゴルフ場が、平成31年4月開園からの来場者数20万人を達成。

【5月】。

平成30年10月に開設した「宮城オルレ奥松島コース」利用者すうが延べ3万人を達成。

【6 月】。

県石巻合同庁舎西側にある、市が整備した柳の目産業用地に、宮城日野自動車株式会社、石巻営業所がオープン。7月にはネットヨタ仙台株式会社、石巻港インター店がオープン。8月には日産プリンス宮城販売株式会社、石巻港インター店がオープンし、同産業用地に移転進出した自動車販売会社3社がそろった。

【7 月】。

「JFBT ビーチテニスツアー2023」が野びる海岸で開催。全国ツアーが仙台市以北で開催されたのは初。

【8 月】。

防衛省補助事業を活用した小野市民センターの大規模改修工事が完了。

【9 月】。

書家 山館しげるさん(かみかわどー)が近江神宮けんしょ大会において最高賞の文部科学大臣賞受賞。

【10 月】。

「NPGA 杯第13回全日本パークゴルフ大会2023in 宮城」が矢本海浜緑地パークゴルフ場で開催。

東松島市初の「女性模擬議会」開催。男女共同参画の促進を図るため自治会役員や商工会青年部など8人の女性が参加。

15 年ぶりに「縄文シティサミット in ひがしまつしま」を開催。縄文都市連絡協議会を構成する市町村のうち13市町の首長らが参加。

SDG ズ(持続可能な開発目標)の理念にそい、観光を通じて文化遺産の促進や保全、持続可能な開発に取り組んでいる地域を国連世界観光機構(現:国連世界観光機関 ユーエヌ ツーリズム)が認定する「ベスト・ツーリズム・ビレッジ 2023」に、本市の奥松島地域が東北地方で初めて認定。

任期満了に伴う宮城県議会議員選挙(東松島選挙区 定数1)で現職の高橋しゅう也氏が無投票当選(3期)。

高卒入団の「プロ野球選手」誕生。日本ウェルネス宮城高等学校 3 年生の大内誠弥さん(赤井南小、矢本二中卒)が東北楽天ゴールデンイーグルスから指名を受ける。

「第1回東松島市小学生オリンピック競技会」をはつ開催。市内小学4年生以上約80人が参加。

【11月】。

台湾・たんらんこどうと宮城オルレが「友情の道」を締結。奥松島コースはたんらんこどうの一部であるきんじひこどうと連携し、観光客誘致の促進を図る。

【2024年(令和6年)2月】。

能登半島地震で被災した自治体を支援するため、石川県輪島市とのと町へ市職員を派遣。災害廃棄物処理方法の助言や、じゅうか被害認定調査、健康支援業務などに当たった。

鷹ぎの森運動公園にスケートボードパークがオープン。

学校給食や業務用食材加工を手掛けるマルヒ食品(株)の東松島工場がグリーンタウンやもと工業団地内に完成。グリーンタウンでは10年ぶりの新規企業進出。

【3月】。

松島海岸と宮とじま・奥松島浮棧橋を結ぶ定期遊覧せんが就航。片道9.3km(所要時間約25分)を毎週日曜日に1往復運航。

【4月】。

宮城県が、東松島市を含むおながわ原子力発電所からUPZ圏内5市まちに対し、原子力災害に対する防災りよく強化を目的に、令和6年度から核燃料交付金の交付を決定。

【5月】。

能登半島地震で被災した石川県のと町に市職員1名を長期派遣。

公用しゃに3種13台の電気自動車などを導入。矢もと庁舎・鳴瀬庁舎駐車場に充電設備と太陽光パネルを備えたカーポートを設置。

【6月】。

「東松島市地域福祉交流プラザ」が開所。旧矢本中央幼稚園舎を改修し、市社会福祉協議会が運営。分散していた各種生活・福祉相談窓口機能などを集約化。

航空自衛隊松島基地で、米軍の大規模総合演習「ヴァリアントシールド」が行われる。

まるせい商運(株)が、みそら工業団地内に物流センターを整備し本社機能を移転。

【7 月】。

令和6年から市内の海水浴場は月浜のみオープン。野びる海岸はビーチスポーツの会場に限り利用。

友好都市東京都大田区との子ども交流事業をはつ実施。市内小学 5 年生 18 人が東京都内で本市とゆかりのある企業の見学や地元小学生と交流。

【9 月】。

(株)サワの宮城第5工場がグリーンタウンやもと工業団地内に完成。

【11 月】。

予約がた乗り合いタクシー「らくらく号」の利用者すうが 40 万人を達成。

おおまがり小学校改築工事が着工(令和 8 年3月末完成予定)。

三陸自動車道矢本パーキングエリア(上り)隣接地に、「道の駅 東松島」がオープン。ぶっぱんエリアには農産物直売じょ、ブルーインパルス関連グッズ売り場のほか、2 階には飲食コーナーなどが設けられ、新たな観光拠点として期待される。三陸自動車道上り線から直接乗り入れと、一般どうからの入場もでき、開業初日から、ブルーインパルスファンや新鮮な野菜などを買い求める来客でにぎわう。

【12 月】。

奥松島運動公園多目的グラウンド本部とうが完成。

【2025 年(令和 7 年)1 月】。

防衛省補助事業を活用した新・矢本運動公園体育館が完成。

【3 月】。

矢本・おおまがり地区の災害時避難行動要支援者などが速やかに高所に避難できる津波避難タワー(収容人数 約 200 人)が矢本運動公園敷地内に完成。

【4 月】。

市制施行 20 周年を迎える。

防衛省補助事業を活用した市図書館の増築改修工事が完成(予定)。